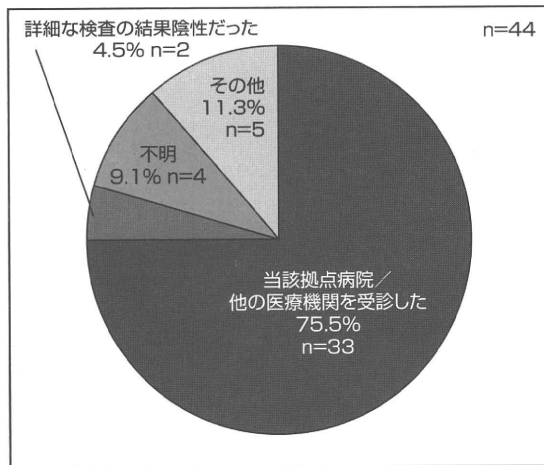


⑤ 受診前相談実施の転帰

受診前相談の結果、66.0% (n = 35) の陽性者が当該医療機関を受診し、5.7% (n = 3) が他の拠点病院を受診した、と報告された (図 6.15)。

図 6.15 受診前相談実施の転帰



C 考察

本調査では、19.5% (n = 28) のMSWが“受診前相談を実施した経験がある”と回答した。受診前相談における主訴などから、専門医療機関受診前の状況にある地域のHIV陽性者および関係者が多様な心理・社会的問題を抱えていることが明らかになった。そして、それら問題に対して、MSWがその専門性を活かし、医療情報の提供やソーシャルワーク的援助を提供することで問題の解決や不安解消の一助となったと言える。

いっぽうで、受診前相談の実施が限定されているという解釈も示唆されている。その背景には専門医療機関受診前のHIV陽性者およびその関係者からの相談ニーズをMSW個人のみで拾い、対応していくことが困難である現状がその背景に存在しているといえよう。そのため、院内外の相談支援体制の構築や連携を強化する必要がある。

現在、多くの新規HIV陽性告知をおこなっている機関としては、地域の検査機関、一般医

療機関などがあげられている。本調査では、受診前相談者の22.6%が一般医療機関で陽性告知を受けた状況にあるが、実際に一般医療機関MSW経由で受診前相談が実施されたケースは1事例しか把握されなかった。

それら状況を鑑みると、MSW単独で受診前相談を実施するという考ではなく、院内システムとしてどのように受診前相談を実施していくか、その際、MSWの担える役割機能は何か、についてさらなる研究が必要と思われる。

D 自己評価

① 達成度について

現時点で、受診前相談の実施状況が把握できた。医療機関における受診前相談のモデルを提示していくことが必要であると考え。それら作業を通じて、エイズブロック・中核拠点病院がどのように地域におけるHIV陽性者支援を実施していけば良いか、といった構図が明らかになるであろう。

② 研究成果の学術的・国際的・社会的意義について

本調査は、受診前の相談に対してのニーズが存在し、そのニーズに対して実際に専門職として支援を実施している事実があることを明らかにした意義のある調査であると考え。

③ 今後の展望

院内システムとしてどう受診前相談を実施していくのか、そしてそのシステムにおける院内外他職種連携の構図を明らかにする必要があると考える。

院内外の連携としては、MSWへの相談経路として件数が多く報告された地域検査機関とブロック・中核拠点病院との連携をいかに深めるか、またHIV陽性者本人から直接ブロック・中核拠点病院にアクセスできるよう情報をどのような方法で発信すべきかを検討する必要がある

と考える。

E 学会発表等

(口頭発表・国内)

1. 山本博之,岡本学,生島嗣:エイズブロック・中核拠点病院MSWによる地域におけるHIV陽性者等支援に関する研究,第24回日本エイズ学会学術集会・総会,2010年,東京.
2. 山本博之:エイズブロック・中核拠点病院MSWによる地域におけるHIV陽性者等支援に関する研究～阻害促進要因を中心として～,日本社会福祉学会第58回秋季大会,2010年,愛知.



DVD「対応する際に知っておきたいこと 地域におけるHIV陽性者の支援」

「地域におけるHIV陽性者等支援のための研究」では、地域で相談・支援活動に携わる専門家らの、HIV陽性者やその周囲の人への対応への準備性を高めることを目的とし、2カ年にわたって映像教材を制作した。本教材の制作にあたっては、支援者がHIV/AIDSの具体的知識やセクシュアリティなどその周辺分野の情報、HIV陽性者の支援経験などの事例やノウハウを得ることにより、HIV陽性者対応への不安を軽減し、よりよい支援へ向けた包括的な理解の促進を図り、自己学習や団体内での研修にも活用できるような支援ツールとすることを目指した。

A 概要

DVD「対応する際に知っておきたいこと 地域におけるHIV陽性者の支援」は、地域でHIV陽性者等の支援経験を持つ専門家、当事者らのインタビューを収録した123分の映像クリップや支援ツール（冊子、調査報告書）のデジタル版を収録したDVDと、収録内容の解説やリソースなどを記載した16ページのガイド冊子によって構成される映像複合教材である。

B 内容

前年度に撮影した専門家4名（医師、看護師、ソーシャルワーカー、企業の人事担当者）のインタビュー映像を拡充する形で、今年度は以下の映像コンテンツの撮影および添付冊子の制作をおこなった。

① DVD

NPO代表…池上千寿子（特定非営利活動法人 ぷれいす東京 代表）2010年6月12日撮影

当事者…高久陽介（特定非営利活動法人日本 HIV陽性者ネットワーク・ジャンププラス）2010年7月5日撮影

研究者…若林チヒロ（埼玉県立大学保健医療福

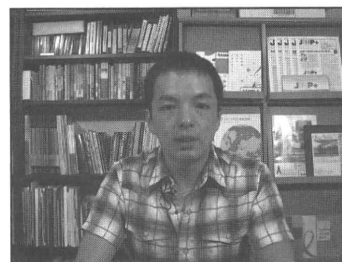
祉学部 講師）2010年9月4日撮影

研究代表者…生島嗣（特定非営利活動法人 ぷれいす東京 運営委員長）2010年9月4日撮影

NPO代表：Introduction/セクシュアルヘルスとセクシュアルライツ/性の多様性とセクシュアリティ/ウイルスは人を選ばない/Q&A



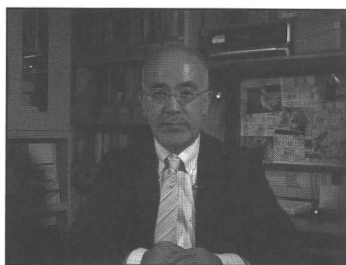
当事者：Introduction/服薬開始の必要性/上司に伝えた時の反応/副作用への対処と周囲の反応/職場で感染の事実を伝えるメリットとデメリット/多様な人が働きやすい仕組み/Q&A



研究者：HIV陽性者と働くということ/HIV陽性者の健康状態と健康管理/HIV陽性者の就労状況/陽性者にとっての就労上の問題点/安心できる職場のための対応策



研究代表者：はじめに（このDVDの役立て方～具体的な活用法）



その他、より理解を深めるための支援ツールとして「地域の相談機関におけるHIV陽性者への相談対応に関する調査」「15人の語りで学ぶHIV陽性者と地域生活 事例から支援を考える」「HIV/エイズとともに生きる人々の仕事・暮らし・社会」の各冊子・報告書、および医師（根岸昌功(前年度撮影)）のインタビュー映像の手元資料「HIV/エイズの医学的基礎知識」のデジタル版データを収録している。

② 冊子

「DVDのご利用ガイド」と題した冊子で、DVDに収録されているインタビューやテキスト資料の内容解説、本教材の具体的な活用方法と、リソース集やコラムなどが掲載されている。

C 公開・配布

2010年10月25日の「地域におけるHIV陽性者等支援のための研修会」（行政・民間相談窓口等の支援者に向けた研修会）内での上映にあわせディスクのみのパイロット版を、同年11月開催の日本エイズ学会学術集会からは「DVDのご利用ガイド」を封入したパッケージ版を、地域でHIV陽性者等の支援に携わる専門家らを主な対象として、広く配付している。

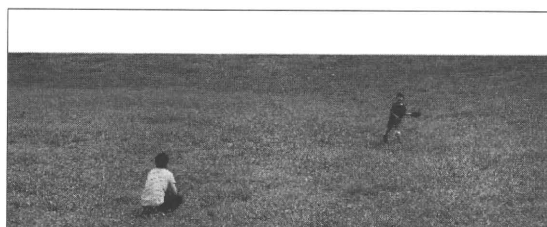
その他、公共機関や教育機関のライブラリーでの収蔵・貸出しや、研修会での上映などといった活用も進んでいる。



Web サイト「地域における HIV 陽性者等支援のためのウェブサイト」

地域で HIV 陽性者やその周囲の人の相談・支援業務に従事する人たちのために役立つ情報をまとめたポータルサイト。研修情報などを提供するトピックスやリンク集のほか、当研究班の成果物のデジタル版がダウンロード、閲覧できる。

<http://www.chiiki-shien.jp/>



地域における HIV 陽性者等支援のためのウェブサイト

<http://www.chiiki-shien.jp/>

厚生労働科学研究費補助金
エイズ対策研究事業
地域における HIV 陽性者等支援のための研究

平成 22 年度 総括・分担研究報告書

発行日 平成 23 年 (2011) 3 月

発行者 研究代表者 生島 嗣

特定非営利活動法人ふれいす東京 研究事業部

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場 4-11-5-403

TEL 03-3361-8964 FAX 03-3361-8835

URL <http://www.chiiki-shien.jp/>

E-mail kenkyu.jimu@gmail.com

表紙写真 矢野根 禎嗣

